

自分を活かし言葉を生かす～スピーチコンテストを通して～

スペイン語学科 3年 柏熊恵

自分のスペイン語能力を向上させるために必要なものは何だろうか・・・。
私がそう考えるときに、最初に思い浮かぶことは“実践”です。もちろん、単語や熟語の暗記はスペイン語のみならず、学習することで身につけようとする外国语のすべてにおいて必要不可欠です。しかし、“向上させる”ために最

「…………」

実際、私は高校3年次に私の出身である栃木県主催の英語スピーチコンテストに参加した経験があります。そこは留学経験のある生徒が多く集まる場で、旅行ですらも海外に行つたことのなかつた私にとっては実力不足を見せつけられた

れうる機会ではあつたものの、高校時代の思い出づくりのため、また少しでも新たな言葉を学べればと、体験後の自分の成長を信じて望んだものでした。結果は当然何も語るほどのものはなく、しいて言うならば参加賞をいただいたようなものでしたが、私は新たに操れる言葉を取得できだと確信し、大変満足し、今となつてもその経験を誇りに思っています。

そうして今回、現在学習中のスペイン語能力の向上を目指してスピーチコンテスト参加を決意したわけですが、テーマ決定・原稿作成といふ二つの作業は妥協をすれば全く単純な作業である一方、自分の意見をはつきりと伝えること

一ズを取り入れてみることのリスクがあるからです。つまり、自分なりの解釈で作ったスペイン語が実は少し違ったニュアンスを持ち得るからです。しかし、私は原稿内容を今回のために創り上げた意見ではなく、本当に普段から自分が持つ意見や感情から構成したためか、あるいはその作成 자체を楽しんでいたからか、不安ながらに完成させた文章はほとんどなく、幸運にもスペイン語に変換する段階において困難を感じることはほとんどありませんでした。もちろん、新たな語彙習得をメインの目標にしていたならば、その新しい単語や熟語を使ってみることに對して不安があつて当然、むしろそのような挑戦的な態度で取り組むべきなのかもしれませんが、私が重視したものは、操れるよう

になる」と、であつたので、一度も聞いたことがないような言い方は避け、自分がより感情を込められるよう、また、聞き手の人にもシンプルに伝わるよう、難しい文章は避けるようにしました。これもまた、苦難を軽減できた理由の一つであるかもしません。何を意見とするか考えることではなく、意見をどう伝えるかを考えることが感情とその言葉を連結できる最適な手段なのではないでしょうか、と私は思います。

本番当口は、予想外の人の多さやカメラやマイク等の機材を見て少し焦りを感じたのが本当に

いるうちに、遂に自分の番がやってきました。私自身の評価としては、感情を込めて演説することはできたつもりですが、頭の中から飛んで行つてしまつて思い出せなかつた文章があり、それを反省点としています。単に緊張や焦りから忘れてしまつたとも考えられるかも知れません。しかし、着目すべきところは別にあるでしょう。なぜならば、その文章はまだ自分の感情と結びついていない、まだ操ることのできてい

ないフレーズであつたためです。といふのぞ、その言葉は後に換えたものだつたからです。つまり、自分の意見や感情を本来から伴つた言葉については本人のなかに浸透し、自然に発言されますが、作られた、あるいは暗記された言葉などは、いざ使える状況になつてもなかなか出てきません。それはあくまでも覚えられたという段階にあるだけであり、まだ自分の言葉となつていなかつからです。そしてこの解決策もまた、まだ自分のものとなつていなかつからです。“実跡”であると想ひます。

今回のスピーチコンテスト参加で学んだこと・それは、一つのものを成し遂げたときにはさらに一つ一つと何かを学んでいるということです。発表のためには表現方法を考え、表現するためには自分の言葉を選び、意見を書きあげるために意見と気持ちと言葉とを結び付けています。この段階を経て自分の言葉で話すという行為が完成していくのです。また、自身で考えてみるとことが最終であり最大のステップだといふことも今回で確信しました。普段の授業中には多くの情報を得ることができますが、しかし私たちはその情報を覚えることだけで

ではなく、理解する」ことで吸収・習得しているのです。従って、私たち学生には考えてみることが最重要ポイントであると言えるのではないでしようか。そして考えてみることが普段あまりものなのではないでしょうか。私はそう考えます。スピーチコンテストは私たち外国语を学ぶ学生への些細なきっかけと共に多大な手助けを提供する機会であります。言葉は人と人とのコミュニケーションの手段であり、同時に自分をも表しているのです。私たちは言葉を生かして自分を活かし、自分を活かしながら言葉をも生きかしてコミュニケーションをとっているのではないか、と私は考えています。そして今後ともいかなることにおいても、考えてみることを忘れず、自分を飛躍させることのできる機会には進んで参加していくと思つてゐるのです。